

開講のことば



# 今年度が正念場、 流通改善をより一層進める

(一社) 日本医薬品卸売業連合会  
会長

## 宮田 浩美

本日は、ご多忙の中、ヒルトップ・セミナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。まずは、日頃より、現場の最前線で、医薬品の安定供給にご尽力いただいております皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。また、流通改善への取り組みにつきましては、平均乖離率が約4.8%まで改善が進んでおります。これは、ひとえに、現場の皆様のご努力の積み重ねによるものでございます。改めて御礼申し上げます。

本日は、現場の皆様と直結する話に絞って、少しお伝えしたいと思います。

卸連合会では、5月に通常総会を行い、環境変化に対応すべく、7つの重点課題に取り組んでいくことといたしました。中でも、最も重要なテーマは「流通改善ガイドラインの遵守」でございます。ご承知のとおり、3月に流通改善ガイドラインが改訂され、さらには、診療報酬改定で新設された「地域支援・医薬品供給対応体制加算」では、「単品単価交渉」や「頻回配送・急配」「在庫調整目的の返品の手続き」などが施設基準として盛り込まれました。我々が流通改善を進めていく上で、そういった環境が整ってきたということから、今年度は、まさに正念場だと私は捉えております。現場の皆様の活動の積み重ねが、そのまま、業界全体に大きく影響してまいります。6月に卸連合会としてお配りした「流通改善ガイドラインの手引き」を、ぜひとも活用いただき、引き続き、流通改善ガイドラインの遵守に

取り組んでいただきますよう、お願いいたします。

さらに、今年度は、皆様の業務に関わる取り組みとして、「災害時の医薬品供給体制の整備」「納品に関する帳票類の標準化の検討」「中抜け返品事例データベースの本格運用」などを実施してまいります。また、継続して、医薬品卸の存在意義の広報を行い、医薬品卸で働く皆様が自信と誇りを持って働ける、魅力ある環境づくりにも力を尽くしてまいりたいと考えております。

また、先日、「骨太の方針2026」の原案が発表され、「流通体制の強化」という文言が盛り込まれました。これを受けて、今後、流通体制の強化に向けた政府の具体的な対応が検討されていくこととなります。卸連合会としても、引き続き、国や国会議員へ要望を伝えながら、さまざまな形で、医薬品卸の皆様を支援してまいりたいと考えております。

さて、今回のテーマは「今後の医療環境変化と医薬流通産業の役割」でございます。厚生労働省の安中課長、みずほ証券の清水部長、日本危機管理士機構の市川理事長、クレコンリサーチ&コンサルティングの木村社長にご講演いただきます。変化を見据えた上での課題や展望について、示唆に富んだお話が聞けるものと期待しております。

本日のセミナーが、皆様にとって有意義な学びの機会となり、会員企業ならびに医薬品卸売業界のさらなる発展につながりますことを祈念して、挨拶とさせていただきます。